

設備と技術で勝ち抜く

1957〔昭和 32〕年～1966〔昭和 41〕年



- ◆ 機械修理部を分離し、新たに新日本機械工業株式会社を設立 (1957)
- ◆ 日刊工業新聞社健康保険組合発足 (1957)
- ◆ 市ヶ谷工場、第 4 号館を完工 (2 階は社長室・紙型倉庫、1 階は鉛版・解版・変電室) (1958)
- ◆ 江古田工場にモノタイプを導入する (1961)
- ◆ 創立 15 周年記念式 (1962)
- ◆ 江古田工場に自動オフセット印刷機の導入を始める (1964)
- ◆ 江古田工場に自動製版機を導入し省力化 (1964)
- ◆ 江古田工場竣工記念披露 (1965)
- ◆ 創立 20 周年記念式 (1966)
- ◆ 自動込物選別機を導入し省力化 (1966)

設備刷新と技術改善

1957（昭和 32）年の新春、増田社長は「本年の印刷界は調整組合の設立はみたものの、依然激烈な競争が行われることは明らかである。当社においてもこの競争に勝抜くため、設備の刷新と技術の改善を図り、作業能力の拡大に最善の施策を講じつつある。すなわち、活版工場にあっては紙倉庫を 2 階建に増築して事務所にあて、旧事務室を工場とすべく工事を急いでいる。この結果、第 2 植字課の製版能力は 6 割方拡大される。平版工場にあっては、従来 8 台の印刷機械をフルに稼働させることが少なく、せっかくの設備も死蔵に等しい結果となっているので、写真製版設備の拡充その他によって、これを打開する。また機械工場はかねて試作中の菓子パン製造機械の完成を機に、これを多量生産化して販路の確保に努めるとともに、ミシンの組み立てをさらに積極的に進める。これらの施策が完成すれば、生産は現在より確実に 4 割方上昇する」と、さらに設備の刷新と技術改善の経営方針を打ち出した。

この年は創立から満 10 周年であった。

1957（昭和 32）年 3 月 14 日、機械修理部を分離し、新たに新日本機械工業株式会社を設立した。社長の増田文彦氏は増田顕邦社長の甥に当たる。同社は 1959（昭和 34）年に「全自動ドラ焼機」を開発、1991（平成 3）年には「東京ばな奈」の生産を開始するなど、製菓機械の開発・製造・販売・メンテナンスなどを行い、2007（平成 19）年に社名を「株式会社マสดッグ



小森のコニー全自動単色オフセット機



江古田工場竣工式

クに変更して躍進を続けている。

いっぽう、翌 1958（昭和 33）年に日刊工業新聞社社屋の本建築を着手した直後、新日本印刷も江古田、市ヶ谷両工場の耐震耐火構造化計画を指示した。

江古田新工場完成

1965（昭和 40）年 2 月、鉄筋コンクリート建地下 1 階地上 3 階に改築された江古田工場は、装いも新たに近代的新工場として生まれ変わった。

活版部門にモノタイプ 8 ポ 6 台、9 ポ 4 台、10 ポ 1 台、計 11 台を施設したのをはじめ、平版部門に A 全判 2 色自動機などの高能率機を設備し、作業の高能率化を推進した。その後、三菱オフセット印刷機スーパービジュ、オートキャスター、高速度紙型圧搾機の購入、活版印刷機の人替えなどが行われた。

工場設備の近代化は当然のように作業能率の増進を

もたらしたが、同時に各種資材や電気、ガスなどの使用量も増え、節約が大きな課題ともなった。当時数百種にのぼる印刷用資材の購入費と、電気、ガス、水道料金などを加えた毎月の支払額は、数百万円にも達した。

そこで、全社的に「各種資材 1 割の節約で凸版印刷機 1 台を産み出そう」といった節約運動が活発に推進され、ある職場では一度使った洗油を布でこして再生するなど、従業員による工夫努力も行われ成果をあげていった。

そうしたときに、日刊工業新聞社は出版の全盛時代を迎えていた。傍系の各社はそれぞれ急成長していたが、ことに日刊工業新聞社の発展はめざましいものがあった。社屋焼失後、時を移さず再建に着手し、文字通り順風満帆の勢いで発展に発展を重ね“世界唯一の工業専門紙”として、新聞界に不動の地位を築いていった。1958（昭和 33）年 4 月には本社本館ビルに

建設に着手、1963（昭和 38）年 11 月 6 日、5 年 6 ヶ月の歳月を費やして、地上 9 階、地下 1 階の本館ビルが完工した。この本館ビル完工を機に、日刊工業新聞社はさらに躍進した。出版活動も順調な経過を辿り、刊行図書の増大に伴い、1960（昭和 35）年 8 月には本館近くに 4 階建鉄筋コンクリート造りの出版倉庫を完工、1964（昭和 39 年）9 月には待望の図書刊行 1,000 点を突破し、工業技術分野の月刊誌の創刊も活発で、そのタイトルは 12 点を数えるに至った。

新日本印刷は、こうした日刊工業新聞社の出版全盛時代を印刷の面から促進したのである。

増田社長逝く

新日本印刷は、1956（昭和 31）年の創立満 10 周年に続き、1961（昭和 36）年には満 15 周年の記念式典を挙行了。さらに 1965（昭和 40）年 2 月 24 日には江古田工場の落成式を盛大に行い祝典をさらに盛り上げた。

増田社長はそのたびに満面の微笑で出席し、「さらにより良い会社にするため、お互いに努力しよう」と従業員を激励した。

江古田工場落成式の当日は、途中市ヶ谷工場にも立ち寄り、全従業員から社長の健康を祈念する万歳を受け、心からうれしそうであった。しかし、この日以後病床に伏しついに会社には姿を見せることはなかった。

1965（昭和 40）年 9 月 26 日午後 5 時 30 分、心筋梗塞のため東京都渋谷区大山町の自宅にて死去された。享年 61 歳。



江古田工場竣工式の当日に市ヶ谷工場に立ち寄る増田社長（社員総会）

当時は日本経済の高度な成長期を迎え、工業技術も日進月歩の勢いで発展している時代で、新日本印刷は主力得意先である自然科学図書出版の隆盛によって、経営状況も順調であった。

わが国の情報産業は、1963（昭和 38）年には 5 兆 512 億円、GNP（国民総生産）の 20.4% だったのが、1966（昭和 41）年には 7 兆 6,178 億円、GNP の 20.9% に達し、同年までの過去 5 年間で約 2.1 倍となり、1 ～ 3 次産業よりも速いテンポで伸びている。内訳は、教育 36.6%、情報機械 24.5%、出版・印刷 14.3%、通信 9.6%、研究開発 7.6%、広告 5.0%、映画・演劇・その他 1.5%、放送 1.0% となっている。このように教育、情報機械、出版・印刷の 3 部門で全体の 4 分の 3 を占め、これらがわが国情報産業の発展を支える原動力だった。この分でいくと、1968（昭和 43）年には 10 兆円産業となるだろうと言われ、なかでも出版・印刷部門の躍進は十分予想されたのである。

 Column 水五訓

増田社長は事業発展の中で、わが国産業界の復興を祈念して、社内外に果敢な行動を展開した。それは、日刊工業新聞の伝統精神である「工業立国」の信条が、国家の危機を目前にして、やむにやまれずほとばしり出た熱情にほかならなかったという。

幸い、その後わが国の工業界、産業界は素晴らしい伸展を遂げたが、その行動綱領「水五訓」だけは傍系各社の綱領として承継された。

「水五訓」は増田社長が日常座右、処世訓としていたもの

で、王陽明の作と伝えられている。

五訓とは、

- ◆ 常に己の進路を求めて止まざるは水也
- ◆ 自ら活動して他を動かすは水也
- ◆ 障碍に遭ひ激しその勢力を百倍するは水也
- ◆ 自ら潔ふして他の汚濁を洗ひ然も清濁併せ容るゝは水也
- ◆ 洋々として大海を充し發しては雨となり雲と変じ凍っては玲瓏たる冰雪と化す而もその性を失はざるは水也である。

1966（昭和 41）年 7 月 18 日には、創立 20 周年記念式が社内において執り行われた。

大久保新社長は、増田前社長の“設備刷新と技術改善で勝抜く方針”を継承・発展させるためにもすぐさま実行に移り、社内に作業改善委員会を設置した。こ

の年、9 月 10 日に設けられた同委員会が後に力を発揮してくるのである。

設備刷新の勢いは続き、11 月 9 日には省力化を図るため、新たに自動込物選別機を導入した。

11・20周年

1957〔昭和32〕年～1966〔昭和41〕年

	当社の歩み	国・内外の動きなど
1957 昭和32年	1・― 共立出版（株）発行の月刊誌「蛋白質・核酸・酵素」の印刷を始める 4・11 平版工場、写真部門の設備拡充 5・10 （株）日刊工業新聞社より月刊誌「新機械」（昭和34年11月号より「機械設計」と改題）創刊され、印刷を始める 6・― （株）南山堂発行の月刊誌「治療」の印刷を始める 9・27 （株）日刊工業新聞社より月刊誌「化学技術」（昭和35年2月号より「化学工場」と改題）創刊され、印刷を始める 12・1 （株）日刊工業新聞社・新日本印刷（株）・増田建設（株）・浅間観光（株）・新日本機械工業（株）の従業員をもって、日刊工業新聞社健康保険組合発足	1・29 南極予備観測隊、オングル島基地に上陸「昭和墓地」と命名 2・25 岸 信介内閣成立 3・25 河出書房倒産、6月に新社発足 5・18 株式市場、戦後最大の暴落 8・27 東海村の原子炉、点火（日本で初めて） 10・4 ソ連、世界最初の人工衛星スプートニク第1号打ち上げに成功 12・6 日ソ通商条約調印 この年、パートタイム流行。「よろめき」「何と申しませうか」「デラックス」「グラマ」「神武以来」が流行語
1958 昭和33年	8・31 千代田区飯田町1-1の土地426坪を（株）日刊工業新聞社に売却し、千代田区飯田町1-8の土地128坪および建物を（株）日刊工業新聞社より買受ける 11・30 市ヶ谷工場、第4号館を完工（2階は社長室・紙型倉庫、1階は鉛版・解版・変電室）	3・9 世界初の海底トンネル・関門国道トンネル開通 3・27 ソ連首相ブルガーニン辞任、後任フルシチョフ 6・1 仏、ドゴール内閣成立 9・26 狩野川台風襲来、死者・行方不明1,269人、家屋全壊・流失2,118戸 10・― 洋紙取引単位キ口建、1連1,000枚（KR）呼称 12・1 1万円札発行 12・23 東京タワー完工、高さ333mで世界一 この年、ナベ底景気
1959 昭和34年	5・12 （株）日刊工業新聞社より月刊誌「電子技術」創刊され、印刷を始める 6・― 日本心理学会発行の隔月刊誌「心理学研究」の印刷を始める 7・― 金原出版（株）より月刊誌「眼科」創刊され、印刷を始める 11・― （株）保健同人生活教育編集室発行の月刊誌「生活教育」の印刷を始める	1・1 メートル法実施 3・15 地下鉄丸の内線が全線開通 4・10 皇太子殿下と正田美智子嬢のご結婚式。テレビの普及と女性週刊誌の活況を促し、この年、週刊誌続々創刊 9・12 大蔵省、ドル為替の自由化実施 9・26 伊勢湾台風にて東海地方に空前の被害 12・11 三井鉱山、指名解雇強行で三池争議はじまる
1960 昭和35年	2・― （株）保健同人社発行の月刊誌「葉の知識」の印刷を始める 10・15 （株）日刊工業新聞社より月刊誌「日刊工業新聞縮刷版」創刊され、印刷を始める	2・3 貿易為替自由化措置発表 5・15 ソ連、人工衛星船第1号打上げに成功 5・19 安保騒動おこる 6・23 日米新安保条約発効 7・19 池田勇人内閣成立 12・27 政府、国民所得倍増計画を正式決定 この年、インスタント食品続出・カップブックス登場・岩戸景気

印刷の歴史	
12世紀	1189 フランス、製紙技術が伝わる ― ヨーロッパに紙が伝わる。東アジア、金属活字の発明により、出版業が盛んになる ― 高麗銅活字が鋳造される（現存する最古の金属活字） ― 宋、現存最古の木活字版印刷物とされる西夏文の仏教印本「吉祥遍至口合本統」が印刷される
13世紀	1298 元、王禎が木活字3万余を設計製作して活字本つくる
14世紀	1341 銅活字による「御試策」が印刷される 1377 高麗、「白雲和尚抄録仏相直指心体要説」が印刷される（現存する世界最古の金属活字印刷本）

1961 昭和 36 年

当社の歩み

- 2・8 江古田工場にモノタイプを導入する
- 11・1 江古田工場新社屋第 1 期完工，活版工場として稼動

1962 昭和 37 年

- 1・26 江古田工場活版に鋳造課設置
- 3・10 創立 15 周年記念式（於・社内）
- 3・10 江古田工場新社屋建築地鎮祭
- 5・14 東京都千代田区飯田町 1-8 の土地・建物を増田建設（株）に売却
- 10・18 江古田工場新社屋第 2 期完工

1963 昭和 38 年

- 11・6 （株）日刊工業新聞社本社新社屋完成
- 11・8 （株）日刊工業新聞社より月刊誌「プレス技術」創刊され，印刷を始める
- 11・30 江古田工場新社屋第 3 期（2・3 階増築）完工

1964 昭和 39 年

- 1・21 江古田工場に自動オフセット印刷機の導入を始める
- 7・15 平版工場を江古田工場と改称
- 11・30 江古田工場に自動製版機を導入し省力化

1965 昭和 40 年

- 2・24 江古田工場竣工記念披露祝賀会
- 7・23 東京都印刷工業組合出資組合に出資
- 9・26 代表取締役社長・増田顕邦死去（享年 61 歳）
- 9・29 故・増田顕邦社長の合同社葬

国・内外の動きなど

- 1・20 ケネディ，第 35 代米国大統領に就任
- 4・12 ソ連，史上最初の人間宇宙船「ボストーク」打ち上げ回収に成功
- 9・16 第 2 室戸台風の襲来で近畿中心に大被害
この年，レジャーブーム・スキー客 34 年の 2 倍
- 4・18 日経連，求人難で採用試験期日申合せ中止，青田刈り横行
- 9・12 原研の国産第 1 研究用原子炉に「原子の火」ともる
- 9・29 貿易の自由化ははじまる
- 10・27 大日本印刷・凸版印刷・共同印刷・図書印刷の 4 社が共同出資でスキャナー導入
- 11・一 活字 JIS 規格公示
- 12・一 約 50 年つづいた「講談倶楽部」「少年クラブ」廃刊
この冬，石油ストーブがよく売れる
- 8・31 貿易自由化率，92.2%実施
- 10・28 小売書店の悪書追放ははじまる
- 11・9 三池三川坑で炭じん爆発，死者 458 人
- 11・12 観光渡航の自由化さまる
- 11・22 ケネディ大統領暗殺され，後任にジョンソン副大統領が 36 代大統領に就任
この年，テレビの影響で児童雑誌の休廃刊あいつぐ
- 6・16 新潟地震・M7.5 おこる
- 8・22 労働省，明春の中卒者の求人率は約 5 倍になると発表，「金のタマゴ」の誕生
- 10・1 東海道新幹線スタート
- 10・10 第 18 回オリンピック東京大会開会
- 10・15 ソ連，フルシチョフ首相解任の発表
- 11・9 佐藤栄作内閣成立
- 12・一 日本印刷工業会標準 3 色インキ設定
- 2・4 中央公論社「日本の歴史」刊，「歴史ブーム」で初巻 50 万部
- 2・7 米軍，北ベトナム爆撃開始
- 3・一 山陽特殊鋼など，経済不況による倒産会社続出
- 3・18 ソ連，2 人乗り衛星船打ち上げ，初の宇宙遊泳に成功
- 6・22 日韓基本条約に正式調印

15 世紀

- 1403 太宗官立の銅活字鋳造所設立。最初の鋳造活字フォント（朝鮮）
- 1420 朝鮮，銅活字「庚子字」が鋳造される。李朝活字による印刷
- 1440 近代的活版印刷技術がグーテンベルグ（ドイツ）によってまとめられる
- 1445 この頃，グーテンベルグの 42 行聖書印刷，金属活字を用いた活版印刷術を確立
- 1464 ローマ近くのスピアコにおいて，イタリア最初の印刷所が興される
- 1465 スイスのパーゼルで印刷業が始められる
- 1470 パリ（フランス），ユトレヒト（オランダ）で印刷業が始められる
- 1473 スペイン，ハンガリーでも印刷業が始められる
- 1476 イギリスで印刷業が始められる
- 1483 スウェーデンで印刷業が始められる

1966 昭和 41 年	当社の歩み 7・18 創立 20 周年記念式（於・社内） 9・10 作業改善委員会を設置 11・9 自動込物選別機を導入し省力化	国・内外の動きなど 8・3 松代群発地震発生 10・21 朝永振一郎，ノーベル賞受賞 11・10 中国，文化大革命はじまる この年，自動販売機が激増 2・4 全日空ボーイング 727，羽田空港沖に墜落。この年，国内で航空機墜落事故頻発 3・31 住民登録の人口，1 億人突破 6・25 「敬老の日」「体育の日」新設 9・5 宮古島に台風，最大瞬間風速 85.3m とわが国最高記録 10・— ひどくなる一方の東京のタクシー乗車拒否，都は深夜バスを運行 12・24 年間倒産 5,919 件と史上最悪 この年，ミニ・スカートが普及

16 世紀	1579 イエズス会のアレッサンドロ・ヴァリニャーノ来日
	1582 九州のキリシタン大名，大友宗麟・大村純忠・有馬晴信の名代として，ローマ教皇に少年使節を派遣（天正遣欧少年使節）
17 世紀	1590 ヴァリニャーノが天正遣欧少年使節とともに西洋活字と印刷機を携えて再来日，初めて洋式活版印刷術が日本にもたらされる。 「キリシタン版」約 30 点の本を刊行
	1607 徳川家康の命で林道春が「大蔵一覽集」11 巻刊行，銅活字による駿河版
	1608 角倉素庵，本阿弥光悦ら「伊勢物語」などを木活字で刊行，嵯峨本，光悦本の名称
	1663 アメリカで印刷された最初の聖書がマサチューセッツ州ケンブリッジでつくられる